

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー専門科目実技確認テスト
評価基準

検定員は、受験者の知識および技術を次の 3 段階(A:可、B:不可、C:危険な実技・指導を伴うため不可)で評価する。

A:可	B:不可	C:危険な実技・指導を伴うため不可
受験者が、プレーヤーとのコミュニケーションを図り、出題課題に対してエントリーレベルとして最低限必要な実技および指導が安全面を確保してできる。	受験者が、プレーヤーとのコミュニケーションを図り、安全面を確保して実技および指導ができているが、出題内容に対して最低限必要な実技および指導ができていない。	受験者が、安全面を確保した実技・指導ができていない。

<評価の観点>

カテゴリーⅠ:救急対応

- ① JSPO-AT が実施できる役割の範囲を理解している。
(ファーストレスポnderの責務に反せず救急対応を行うことができる。)
- ② スポーツ外傷・障害および内科的病態に関する基礎的な知識にもとづいた対応ができる。
(病態と医学的留意事項を把握して対応できる。)
- ③ 適切な評価ができる。
(出題内容に対する初期評価から搬送および二次評価の内容・手順に問題(患部の悪化や二次損傷の恐れ)がなく救急対応ができる。)
- ④ 評価結果にもとづいた救急対応ができる。(症状に見合った救急対応の技能を有する。)
- ⑤ プレーヤーとコミュニケーションを図って医療機関に引き継ぐまでの対応ができる。
(実施する評価や救急対応をプレーヤーに伝えた上で医療機関へ引き継ぎまで行うことができる)

カテゴリーⅡ:コンディショニング・リコンディショニング

- ① 評価実技能力を有する。
(コンディショニング／リコンディショニングのプログラム処方に必要な機能評価ができる。)
- ② 評価にもとづき複数種目で構成されるプログラム作成能力を有する。
(外傷・障害特性、競技特性、フィットネスレベルにあわせ、目的に応じたプログラム作成ができる。)
- ③ プログラムの適切な実技指導ができる。
(デモンストレーション、不良動作の確認、危険な動作の観察などが適切に行われている。)
- ④ プログラム説明におけるプレーヤーとのコミュニケーション能力が備わっている。
(評価、プログラム指導およびリスク管理における必要なコミュニケーションが備わっている。)
- ⑤ プログラム作成および指導におけるリスク管理能力が備わっている。
(外傷・障害特性、競技特性、フィットネスレベルを考慮した症状増悪や二次損傷のリスク回避ができる。)

カテゴリーⅢ:安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防

- ① 外傷・障害の理解とテーピングテープの種類やテーピングの手技を選択できる。
- ② ポジショニングが適切である。
(プレーヤーに適切な肢位を指示している。リスクに配慮している。巻く側の姿勢が適切である。)
- ③ テープを巻く範囲・方向が適切である。
(アンダーラップ・アンカー・サポートテープの位置、方向・角度が適切である。)
- ④ 適切な張力で効果的なテーピングが実施できる。
(たるみ・しわ・食い込みの有無)
- ⑤ 手早く綺麗なテーピングが実施できる。
(時間内の完了)

最終更新日:令和 7 年 6 月 11 日